

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Field (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0174100602, 有限会社 ウエルネス).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kihon=true&JigyosyoCd=0174100602-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族様との信頼関係を築き、ご相談しながら対応に努め、快適な生活を送れるように努めています。コロナ禍で面会の制限がありましたが月一回のお手紙の他に携帯のテレビ電話でお話して頂いたり、お電話で体調面をお伝えし、お気持ちの負担を減らせるように努めました。

当事業所は、釧路市中心街から北方面の閑静な住宅地に位置しており、2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には、ドラッグストアや飲食店などがあり、利便性の良い地区である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Achievement (1-4 scale), and Evaluation (O/empty circle). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで話し合いながら作った理念をもと入居者様が安心して暮らせる様に支援している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大前は町内会の方が月1、2回程度、来訪し入居者様と交流や町内会の行事に参加をしていた。コロナ禍になって交流機会は少なくなったが町内会より折々にお菓子を届けてくれたり、お電話で話したり等つながりを感じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には2つの町内会、数名の方を通して相談したい事があればお電話や来訪して頂けるように努めている。近隣の方からも認知症症状に関する事や入居についての相談なども対応させて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍により集まったの開催が難しかったが集まらなかった時はホームの近況を報告、お電話やお手紙で意見を頂き、参考にさせて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には解らない事、気になる事などある場合は連絡し相談、意見をもらっている。 包括支援センターの方には運営推進会議には毎度、ご意見を頂いている。コロナに関する事でも相談にさせてもらう機会があった。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を開催、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、気になる事なども職員間で話し合っている。日中、玄関の施錠はしていない。身体拘束に該当する例がある場合は市に相談して対応していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について新人職員入社時やカンファレンス、全体会議などで学ぶ機会を設けている。毎月のカンファレンスでも言葉使いや抑制などについても気になる事は職員同士でも話合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用した方は現時点ではない。外部研修に参加する機会がなかったが活用する方に対する支援にも努めて行けるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には書面を用いて説明し、不安や疑問も尋ね、説明をしている。不安や疑問が解決された上で契約、ご入居して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見を頂くためご意見箱を設置した。以外にも何かある場合には直接、ご連絡し意見を伺うなどしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は常に聞ける状態である。機会はカンファレンスで意見を聞き話し合ったり、カンファレンス以外では連絡ノートを使用し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価表を用いており、日頃の勤務状況についても管理者から経営会議などで報告、代表者も把握している。資格取得によって手当の支給もあり、時間外労働は職員は殆ど無い状態。休憩室も設備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加機会は全職員にあり、研修の案内が届いた時は皆様にお知らせ、参加希望の職員を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修に参加することで、同業者施設職員と交流する機会がある。コロナ禍において電話などでも情報交換する機会が多く、参考にすることも多かった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や不安、困っている事などをお聞きし安心を確保できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の段階でも様々な面でのお話を伺っている。入居が決まった段階でも今後についての要望をお聞きし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談や見学の際に話を聞く機会を設け、必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつを食べる時間はある程度決まっているが過ごし方は入居者様にお任せしており、生活面でのお掃除や調理、洗い物等も、状況により職員と共に行い、コミュニケーションを図り、暮らしを共にする関係を気づくように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様にお変わりがあった場合や改めて何かを行う場合などご家族様にお電話や面会時など相談しながら行うようにしている。特にお変わりない場合も月1回、お手紙で近況をご報告し情報を共有し入居者様をお支えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は制限していたが電話で関係が途切れない様に取り次いだり、コロナ禍前は馴染みの方が来てくれていた。居室でゆっくりお話出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方いつでも交流できる環境にある。子供の話や若い時の話など職員が介入しなくても盛り上がっている事が多い。又、自分からコミュニケーションを図りにくい方については職員が様子を見ながら交流を図れる場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の方が入居される場合も多く、契約終了後も商店などで会った場合はお話を伺い、ご相談の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にお話を伺い、会話の中から思いや暮らしの希望に添えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様からも生活環境などについてお聞きし、本人とも世間話やコミュニケーションの中でこれまでの暮らしぶりや経緯についてもお聞かせ頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、心身状態、表情、発言、行動など把握に努め、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向を優先的に考え、作成するよう努めている。カンファレンスなどで話し合いケアプランに反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の発言や行動、状況が伝わるように記入し職員間で共有し、夜勤以外の職員で集まる事が多いカンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の付き添いが困難な場合の病院受診対応や個々の要望に合わせたサービスが出来るよう可能な限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は近隣の商店へ気分転換や散歩を兼ねて外出していたがコロナ禍となって感染の心配等から頻度減り、車で市内のドライブ、昔住んでいた場所など廻ったりした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の方、往診の方というが本人、ご家族に選んで頂いている。医療関係者に最近の体調、気になる所、日頃の様子がわかるよう付き添い時にお知らせ家族様が対応している方にはお手紙をお渡しし適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域訪問看護と契約し月2回健康相談に来て頂いている。気になる事がある時は相談をしてアドバイスを頂き、主治医にも報告、相談している。往診先の看護師にも往診日以外でもお変わりがある場合には報告、相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に入居者様の情報をお伝えし書面でもお渡ししている。又、定期的に、医療機関と連絡を取り、その内容もご家族様へ報告し共有したり、ご家族様も医療機関から言われた内容もお知らせして下さっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、明確に決めている家族は少なく、体調にお変わりがあった時に話し合いし往診医と共に相談しながら取り組んでいる事が多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	往診医若しくは看護師が、24時間必要時にはいつでも連絡でき、駆けつけてくれる体制になっている。また定期的に夜間急変時の対応や応急手当について学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は年に二回行っている。避難訓練の際には、町内会の方達にも参加を頂いている。災害時の対応等も全体会議で話し合いも行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の為、書類などで必要のない部分は個人名をイニシャル表記にしている。新入社員が入った時や節目など会議等でも説明、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたい事や行きたい所等を聞き、出来る限り希望が叶えられるように支援している。その都度本人に確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	自身で決定できる入居者様に関してはご自分のペース過ぎて頂いていると思うが言葉や身体が思うように動かない方についてはその方が何を望むかを職員間で話し合い支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、理美容ボランティアに来て頂いている。また希望があれば、ご家族の協力でなじみの美容室にも行っている。介助が必要な方には起床時、離床時には職員が身だしなみを整えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいと希望があったものは献立に取り入れられている。調理は出来る部分に参加する機会をつくっている。食器洗いや下処理なども手伝って頂いている。定期的に皆で出来るおやつ作りも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面も考えたメニューを職員が月替わりで作成しているが以外にもミキサー食の方や糖尿病や腎臓などに配慮した調理も個々に合わせて可能な限り行っている。それぞれの好みに合わせた飲み物やゼリーなどを用意し水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と口腔ケアを行っている。自身でケアできる方は自身で行って頂き、介助が必要な方は職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人日誌にチェックする事で、個々の排泄パターンの把握に努め、その方にあったトイレの声掛けに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時に牛乳の飲用を励行している。ヤクルトを週に1度来て頂き利用されている方もいます。排便チェック表での確認と、こまめな水分摂取の声掛け、適度な運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者様のスケジュールに合わせて入浴して頂く事もあるが基本、入浴は午後となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、入居者様のご意思でお部屋で臥床し休息されている。特に消灯時間も決めていないが好きな時間に居室に戻られ、夜間は概ねぐっすり休まれる事が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のファイルに薬の一覧を綴じており、内服薬変更時には業務日誌・連絡ノート等で確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や様々なお手伝い等希望する事に参加して頂き一人ひとりの力を生かせるよう努めている。個々に合わせたレクリエーションやコロナ禍で頻度は減ったが季節が感じられる様ドライブ等で気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で頻度は減ってしまったが以前はスーパーでの買い物や、レストランでの外食や、花見や紅葉ドライブ等個々の希望に合わせて計画し出掛けていた。コロナの感染状況を見ながら以前の様に外出支援をしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方はホームで管理している。希望される方には出掛ける際に必要な分だけ随時渡し、支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様などへお手紙を書ける方や電話のやりとりもいつでもできる様に支援している。コロナ禍で面会制限中はテレビ電話をお繋ぎし顔を見ながらお話を頂く機会もありました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の飾りつけや壁面スペースの装飾、季節に応じたお花を生ける等、季節を感じてもらえるように努力している。温度計設置しており、利用者様にお聞きしながら温度調節をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在居室以外に一人になれるスペースはないが、気の合った物同士で思い思いに過ごせる様、食卓テーブルや椅子の位置等を変えたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物を持ち込んで生活されており配置に関しても相談しながら心地よく生活できるように支援している。介助面が多く、転倒の危険のある方についてはその方の動きに合わせた配置を考慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間の広いトイレを増設したことで、車イスや歩行器を使用している方も、一人で排泄動作を行なえるようになった。		